

# 22年度物価3.0%上昇

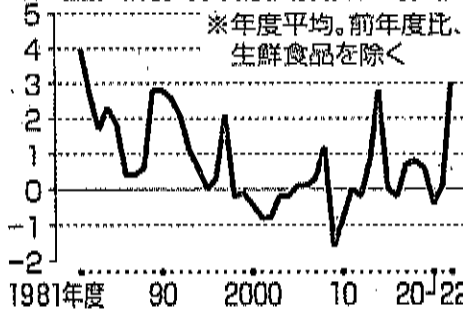
## 41年ぶり伸び率、資源高騰

総務省が二十一日発表した二〇二二年度平均の全国消費者物価指数(二〇二〇年=100、生鮮食品を除く)は、前年度と比べ3.0%上昇の一〇三・〇だった。伸び率は二一年度の0.1%から急拡大し、第二次石油危機でインフレが続いていた一九八一年度(4.0%)以来四十一年ぶりの大きさとなった。ロシアのウクライナ侵攻に伴って資源価格が高騰し、為替相

場の円安も重なって電気・ガス料金や食料品などの価格が幅広く上昇、家計の重荷となった。同時に発表した二〇二三年度の指数は、前年同月比3.1%上昇の一〇四・一だった。伸び率は二月から横ばいだったが、3%を超える水準が昨年十月から半年間続いている。二二年度の物価上昇率は日銀が目標とする2%を上回ったが、日銀は、物価高

は一時的で二二年度には1.6%に下がると予測。大規模金融緩和策を当面続ける方針だ。二二年度は電気、都市ガス代を含むエネルギーが12.8%上昇し、一九八〇年度(30.6%)以来の大きな伸びとなった。生鮮食品を除く食料は5.4%上昇。原料や輸送コストの高まりを背景に家電や日用品などの家具・家事用品も6.0%上がった。

全国消費者物価指数の推移



調査した五百三十二品目のうち上昇が四百三十一品目と約八割を占めた。二二年度に上昇したのは二百九十八品目だった。三月はエネルギーが3.8%低下し、下落幅は二月の0.7%から拡大した。政府が電気・ガス料金を補助した効果が出た。一方、生鮮食品を除く食料は8.2%

上昇。鳥インフルエンザで供給が滞った鶏卵が29.4%上がったほか、食用油が24.3%、大福餅が17.3%、唐揚げが12.4%それぞれ上昇した。食品以外でも、日用品や家電で洗濯用洗剤が17.6%、ルームエアコンが10.9%上がった。政府の全国旅行支援で価格が下がっている宿泊料は、観光客の増加による価格上昇圧力で、低下幅が二月の6.1%から0.6%に縮まった。総務省の担当者は「エネルギー価格の伸びが縮小する一方、食料や日用品は拡大している」と分析。「今の段階で物価全体の伸び縮小は見えていない」と話した。